

声なき感染症を知る

◆72◆

新型コロナウイルス感染症「COVID(コビッド)ー19」の感染拡大が止まらず、政府は16日、緊急事態宣言の対象を全都道府県に拡大しました。今月も引き続き、新型コロナウイルス感染症についてお話しします。

▽感染症の特徴

感染症は英語で「communicable disease(コミュニケーション・ディジーズ)」、糖尿病や高血圧などと感染症以外の疾患は「non-communicable disease(ノンコミュニケーション・ディジーズ)」と言います。コミュニケーションという言葉から想像される通り、感染症がそれ以外の疾患と大きく異なるのは、ある人が他の

人(あるいは動物)と接触することで伝播する、つまり自分が感染する、他人に感染させるという点です。極端な話、他人(あるいは動物)と全く接触することがなければ感染する可能性はありません。新型コロナウイルス感染症の場合、他人と接触を避けることは、直接触れないことと、唾などの飛沫(ひまつ)を浴びないように2メートル以上の距離

新型コロナウイルス感染症とよく比較される例として、2003年に中国広東省を起源とした重症急性呼吸器症候群(SARSサーズ)がありますが、SARSは感染者のほとんどが重症者でしたので、患者とその接触者の早期発見と隔離をすることで感染拡大を防げたわけです。しかし新型コロナウイルス感染症は、一部は自分の肺では呼吸することすら困難で人工呼吸器を要する重症者がいますが、多くは無症状や症状はあるが息苦しくなく食事を摂取できる軽症者です。

条件下で接触し、その場にいた人たちが同じような症状が出てきて(集団感染の発生)、ようやく検査し感染に気づくことがあります。なお集団感染は3条件が揃った時のみ起きるわけでなく、どれか一つの条件でも起きる可能性があります。▽治療薬やワクチンは研究・開発中さらに現時点で感染症治療や予防の中心となるべき治療薬やワクチンがなく、世界中で急ピッチで研究、開発がされている段階です。

▽限りある医療資源

感染者の診療にあたる医療従事者も感染しない、させないが基本です。しかし、感染防護具、マンパワーなど医療資源には限りがあり、需要と供給のバランスが崩れてしまうと、医療とかけ離れた悲惨な未来が待ち受けています。

▽感染拡大を防ぐために

すでに在宅勤務、時差出勤、ウェブ講義・会議や不要不急の外出を控えるなど、なるべく他人との接触を避ける努力を多くの方がされていると思います。行動自粛がすぐ翌日の感染者減少につながるわけではなく、効果が現れるのは新型コロナウイルス感染症の場合2週間後であり、今後の感染者数がどれくらいになるかは他人との接触をどの「程度」減らせるか次第です。また、気が緩むと再び増加するかもしれません。感染しない、させないために、不要不急の外出をせず他人と接触を減らすことが、自分自身と大切な人の感染を防ぐことにつながります。

把握しづらい軽症者 接触減らし感染防止

を取るということです。

▽あつてはならない差別や偏見

ハンセン病、HIV感染症など、感染症は人間の歴史の中で、無知から感染者への差別を生み、数々の悲劇を経験してきました。病原体は人を選ばないので、接触があれば誰もが新型コロナウイルス感染症に感染するまたは感染させる可能性があり、感染者はもちろんのこと、さらには昼夜を問わず感染者のケアにあたっている医療従事者、そしてその家族への偏見は、あつてはなりません。▽新型コロナウイルス感染症の対応の難しさ

そして、医療機関を受診しないような軽症例が多いこと、初期の症状が発熱、咳など風邪のそれと類似していること、ウイルスの有無を調べるPCR検査は感染した全員が陽性とはならない、逆に感染していない全員が陰性とはならないという検査自体の限界もあることなどが、新型コロナウイルス感染症を初期に風邪と区別し、全ての感染者を把握すること

を困難にしています。▽集団感染で初めて気付く場合もそのため、特に出歩くことのできる無症状や軽症の感染者の一部が、他人と「密閉」「密集」「密接」の「3密」の



疫病を払うとされる妖怪「アマビエ」をモチーフにして厚労省が若者向けに作成した啓発アイコン(厚労省のホームページから)

知らないうちに、拡めちゃうから。